

日本陽電子科学会会報「陽電子科学」(以下、会報と略す)は、編集委員会(以下、委員会と略す)の依頼による寄稿と、会員からの投稿からなる。依頼による寄稿は会員外による場合も認める。掲載の採否は委員会にて決定する。内容および表現などについて委員会が修正を依頼することがある。

原稿は原則として TeX スタイルでの電子データ作成とするが、WORD ファイルの電子データでもよい。両スタイルファイルは本会 WEB ページからダウンロードして、利用することができる。著者が TeX スタイルの原稿を作成できない場合には、委員会において TeX スタイルに変換する。1 ページ目に「題目(和文、英文)」「全著者名、所属および住所(英語表記も含める)、代表著者の連絡先(住所、TEL/FAX、電子メールアドレス)」、2 ページ目に「和文要旨(200 字程度)、英文要旨(150 Words 程度)、キーワード(和文および英文で3 個以上9 個以下)」、3 ページ目から本文、参考文献、表、図のキャプションと続き、最後に全著者の紹介(写真(JPEG ファイル)および略歴等)の順番で記述する。図は一つの図毎に PDF 形式あるいは EPS 形式のファイルとして別途作成し、本文とともに投稿する。また、原稿提出時に著作権譲渡に関する承諾および掲載図等の掲載許可等に関する「記事出版に関わる確認書(以下、確認書と略す)」を添付する。本会指定の書式である「確認書」は本会 WEB よりダウンロードできる。会報の刷上りはモノクロ印刷であるが、WEB 版にはカラー版での掲載が可能である。

## 1. 主な内容と執筆要領

- (1) 巻頭言(刷上り1 頁)
 

委員会から依頼された会員がその所信を述べる。
- (2) 入門講座(刷上り頁に制限はつけない)
 

陽電子科学の初学者の啓蒙のため、各研究の説明および最近の研究を平易に説明する。
- (3) 最近の研究から(刷上り4 頁-6 頁)
 

陽電子科学等がかかわる最近の進歩が著しい特定の主題について、現在の研究状況とその内容を専門外の会員にも理解しやすいよう紹介する。
- (4) 総説(刷上り10 頁以内)
 

陽電子科学等がかかわる特色ある研究を中心として、分野全般にわたる最近の進歩とその背景を、広い視野から総合的に解説する。
- (5) 実験技術紹介(刷上り1 頁-2 頁)
  - 1) 広い範囲の人々にとって興味のある実験法について、その原理と技術上の問題点、それが貢献できる分野などを紹介する。
  - 2) ある実験の目的のための有効な知識、コツなど、普通の解説書には表しにくいような記事。
- (6) 特別企画(別途指定)
  - 1) 退職記念講演、講座、座談会、特定分野の特集などは委員会が随時企画する。
  - 2) 内容と執筆要領はその都度委員会が定める。
- (7) 受賞記事(刷上り4~6 頁)
 

本会奨励賞受賞者および会員が授与された賞に関する業績記事。
- (8) 追悼(刷上り1 頁以内)
 

陽電子科学への貢献の大きかった会員、名誉会員、国内外の陽電子科学研究者に対する追悼記事。執筆者は委員

会から依頼する。

- (9) 研究室紹介(刷上り1 頁-2 頁)
 

陽電子科学関連の国内外の大学・研究機関・民間企業の研究グループの紹介記事。執筆者は委員会から依頼する。
  - (10) 国内外の陽電子科学関連集会の案内記事
    - 1) 国内で開催した陽電子科学関連学会および研究会等のプログラムの紹介
    - 2) 国内外の陽電子科学関連学会および研究会等の開催案内
  - (11) 共同利用施設からのお知らせ
 

陽電子科学関連の全国共同利用施設等からの案内記事。
  - (12) 国内外の陽電子科学関連学会の印象記(刷上り1 頁)
    - 1) 国外の陽電子科学関連学会・研究会等の参加者にその学会印象記事。執筆者は委員会が依頼する。
    - 2) 陽電子科学研究交流会の印象記事。執筆者は委員会が依頼する。
  - (13) 会員からの声(別途指定)
    - 1) 広く会員にとって関心があると思われる話題についての個人的な意見や感想を述べた投書を掲載する。
    - 2) 掲載の採否は委員会の判断によるが、その内容に関する責任は投稿者が負う。
  - (14) 事務局からのお知らせ
    - 1) 総会、理事会等の議事録。
    - 2) 入会、退会者記事。
    - 3) その他の本会運営に関する案内記事。
- ## 2. 原稿作成上の注意
- (1) TeX 用スタイルファイルあるいは WORD スタイルファイルを利用して原稿を作成する。依頼原稿は依頼した編集担当委員宛に電子メールなどを利用して電子データで提出する。その他の原稿は、下記4 の問合先に提出する。
  - (2) 指定頁数を大幅に超過した場合には原則として短縮を求めることがある。目安として2400 字が刷上り1 頁となる。簡単な図の場合には、600 字と考えるとよい。
  - (3) 本文は黒色、横書きとし、専門用語以外は原則として常用漢字・新仮名づかいを用いる。不必要な外国語の使用は避ける。句読点は、「,」「.」に統一する。
  - (4) 単位は原則として SI 単位を用いる。数字と単位の間は半角を空ける。単位は「ms<sup>-1</sup>」のように表記する。
  - (5) 原稿の言語は日本語とするが、委員会が認める場合には英語でもよいとする。日本語で書いた場合には、英数字はすべて半角とする。
  - (6) 数式には式1、式2 と通し番号をつけ、イタリックで書く。また、物理定数や物理量を示す記号もイタリックとする。
  - (7) 表は別紙に書き、表1、表2 のように通し番号をつけ、説明文、表を続ける。他の文献から引用する場合には引用文献を記載する。
  - (8) 図および写真には図1、図2 のように通し番号をつけ、一つの図毎に別紙に書き、本文とは別に PDF 形式あるいは EPS 形式で作成する。また、図説としてキャプションは本文にまとめて記す。他の文献から図を引用もしくは転載する場合には、必ず引用文献を記載する。

(9) 参考文献

- 1) 文献引用の範囲は、それが必要かつ十分であるように留意する。私信のような一般の人が入手しにくい文献は引用することをできるだけ避ける。
- 2) 文献の引用は Beckham,<sup>1)</sup> Coleman,<sup>2,3)</sup> Lewis<sup>4-6)</sup> などのように通し番号をつけ、論文の末尾に一括して示す。1つの番号には1つの論文が引用されることが望ましい。
- 3) 参考文献の書き方は著者名、誌名、巻、年、頁の順とする。著者名は原則として省略しない。巻数はボードの指定をする。雑誌名の省略及び欧文の書き方は AIP の方式に準ずる。単行本の書名のうち日本語のものは「」でくくり、欧文のものはイタリックの指定をする。日本語の場合は人名、書名とも省略しない。次の例の形式にならう。
  - 1) 谷山雅夫, 福田博: 日本陽電子科学会会報 **3** (1993) 23.
  - 2) H. Goto, A. Baba, B. Smith, C. Dormel: Phys. Rev. Lett. **64** (1990) 235.
  - 3) 小林祐輔: 「陽電子のフロンティア」(科学同人, 2011) p. 293.
  - 4) G. Smith, J. Thomas: Positron & Positronium Physics (ADG Academic, 2001) p. 111.
  - 5) <http://chemistry.ttf.tohzai-u.jp/gabcb111/index.html>
- (10) 著者校正は必ず1回以上行い、それにより内容および表記について著者が最終的な了解をしたと判断する。
- (11) 別刷は作成しない。
- (12) 他の文献から転載または修正して転載する場合には、著作権の問題があるため、必ず出典を明記し、著者自身が

著者および発行者の書面による許可(自著の場合にも必要)を得ること。なお、著作の代表者は掲載許可に関する「確認書」を提出すること。

- (13) 謝辞が必要な場合は原稿作成にかかわるものに限定し、本文最後に簡潔に記載する。

3. 著作権

(1) 会報に掲載された寄稿等の著作権

会報に掲載された寄稿・投稿等(以下寄稿等という)の著作権は日本陽電子科学会に帰属する。著作の代表者は著作権譲渡に関する委嘱に関して、「確認書」を提出すること。

(2) 寄稿等の利用

寄稿等の全部または一部を他の出版物に転載し、翻訳し、あるいはその他の利用をしようとする者は、本会の承認を得、またその寄稿等が会報に掲載されたものであることを明記(出所明示)しなければならない。

4. 問合せ先

〒305-8565 つくば市東 1-1-1 つくば中央第五  
産業技術総合研究所 計測標準研究部門 伊藤賢志 気付  
日本陽電子科学会 編集委員会  
E-mail: [editor@positron-science.org](mailto:editor@positron-science.org)  
TEL/FAX: 029-861-4622, <http://positron-science.org/>

(平成 25 年 9 月 2 日一部改訂)  
(平成 25 年 12 月 23 日一部改訂)